

三原市歴史民俗資料館

蔵出しお宝ニュース

— 第 30 号 —

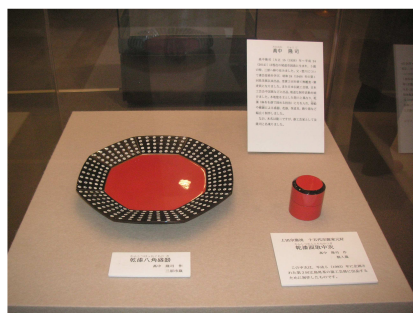
三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。
本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

第2回 蔵出しお宝展 648 名ご来場！

平成 25 年 10 月 30 日（水）から 11 月 3 日（日）の 5 日間「第 2 回 蔵出しお宝展」を三原駅前のペ
アシェティ三原西館 2 階の市民ギャラリー・ギャラリー 1 にて開催いたしました。連日たくさんのご来場
を賜りましてうれしくしています。最終日の 3 日（日）は、第 10 回三原浮城まつりが開催され、特に
盛況でした。この日は会場内で市民学芸員有志の皆様のご協力で、無料体験コーナー「甲冑を着てみよ
う！」を行いました。市民学芸員の皆様には続いて大変お世話になりました。



三原城址之碑（拓本）



高中隆司の作品



茶道具



佛通寺歴代管長の墨跡

今回の企画展でメインにしておりました、三原で活躍した漆工芸家^{うるしこうげい か たかなかそう}の高中惣六・隆司父子の作品をケースに展示しますと、黒色と朱色の漆が映えて美しいものでした。また、三原市重要文化財の紙本著色三原西町・東町絵図を熱心に鑑賞され、現在の町並みと比較をされる方が多くおられました。佛通寺歴代管長の墨跡を中心とした書画作品、中世の三原で作られ“三原物”として全国に知られる刀剣も重厚な趣でした。

今後このような行事を企画して参りたいと思いますので、ご声援よろしく願いいたします。

左の写真は企画展風景

三原ふるさと子ども博士講座の補講を開催



平成 25 年 11 月 17 日（日）、三原ふるさと子ども博士講座の補講を当館で開催しました。子どもたちに昔の生活を感じてもらおうと、当館学芸員も江戸時代の礼服である袴姿で臨みました。まず 2 階の常設展を見学していただき、続いて 1 階ロビーで昭和期に使われた生活資料のクイズ大会を行いました。

常設展では三原にナウマンゾウがいたこと、江戸時代の干菓子が残っていること、のぞきからくりの実物が日本に 2 台しか現存しないことなどを、本物の資料を見ながら学びました。三原城の模型を見ながら現在の場所と比較をしてみると、明治以降の埋め立てで陸地が広がっていることに驚いていました。

1 階では三原で発展した大身の鍵槍を用いる佐分利流槍術の解説を行いました。三原は古くから武芸の盛んな地として近隣に知られていました。安政 4（1857）年、講武所に加えて吾往館という道場が三原城内の西築出（現在の港町）に創設され、武芸の鍛錬がされていました。

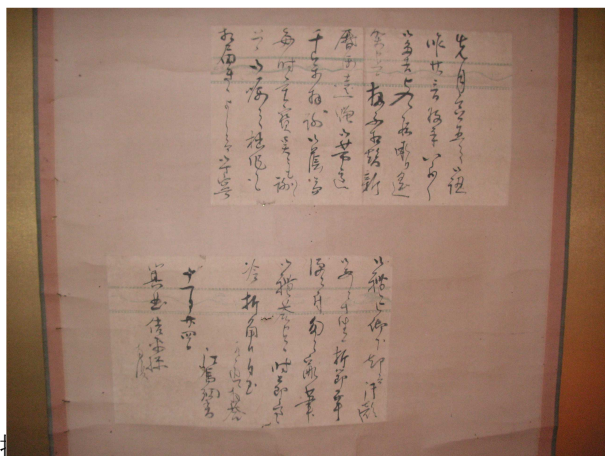
また、炭を使うアイロンや氷で保冷する冷蔵庫、蓄音機などをクイズ形式で名称を紹介しました。現在の生活用品と比較しますと、電気を用いないことと形態が幾分異なることから、冷蔵庫を金庫や筆筒と思っていた子どもたちが多くいました。

約 1 時間の講座でしたが、子どもたちは大変楽しかった様子で、「また勉強しに来るね」と帰り際に笑顔で挨拶をしてくれました。

当館は国民の祝日・年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）以外は土日でも開館しておりますので、お気軽にご来館ください。

（左上）三原ふるさと子ども博士講座の 1 コマ

置き 床 春 秋



箕曲 侑平 宛 書簡

江馬細香〔天明 7（1787）年～文久元（1861）年〕は江戸時代の女性漢詩人・画家です。頼山陽とも交流がありました。11 月 24 日付の書簡で、新しい暦が届いたお礼、細香の絵が侑平の許に届いたことなどが書かれています。

花入 唐銅鶴首 花 季のもの

発行 平成 25（2013）年 11 月 28 日
〒723-0015 三原市円一町二丁目 3 番 2 号
三原市歴史民俗資料館
TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用されないようお願い申し上げます。